

代表質問

市政会代表

丸山議員

その他の質問
・中部縦貫自動車道と環境問題について
・勝山市の観光に対する取り組みについて

長尾山総合公園の再整備について

Q 質問

県立恐竜博物館に次ぐ第2恐竜博物館を、勝山市に建設されるように県に働きかけると共に、入館者の利便性の向上を図るための駐車場やアクセス道路の整備を進めることが喫緊の課題と思われる。年間の入場者数を70万人から100万人に増やす西川知事の構想に対応する必要があると思慮するが、市長の見解を伺う。

A 答弁

勝山市と福井県が、お互いの立場を尊重し、対等に協議ができる良好な関係を築き、市が負担している公園の維持管理費問題、渋滞対策、さらには県が今後計画している施設の立地等について、フラットな場での議論の結果、納得できる結論を得たいと考える。

Q 質問

大野市は既に太田国土交通大臣から「重点『道の駅』」の認定証を受け、永平寺町も道の駅「永平寺温泉（仮称）」を打ち出し、さらには福井市も道の駅「一乗谷あさくら水の駅」を既に表明している。

勝山市は、道の駅（恐竜の駅）構想を既に諦めてしまったのか。見解

を伺う。

A 答弁

勝山市観光振興ビジョンを基に、福井県の観光新戦略と園再整備特別委員会の議論も踏まえ、県内各地の観光地をガイドする機能を合わせ持たせた道の駅として、来年度の「勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定の中に位置づけて、道の駅を整備していく決意である。

北谷町コミュニティセンターについて

Q 質問

5月オープン予定の北谷町コミュニティセンターは、北谷町のまちづくりプラス活動拠点として住民が指定管理者制度を利用し過疎の村を再生するプロジェクトとする事業であり、市長はこれが正に地方創生であると述べている。市としてこの北谷町の運営に何を期待しどのように指導していくのか。

A 答弁

まず一番に北谷町が目指すべき取り組みは、北谷町ならではの魅力を交流の素材として発信し、交流人口を増やしていくことだと考えている。過疎地の再生にまず必要なのは、交流であり、定住化と定住人口の増加は、この交流の結果がもたらす次の作用であると考えている。

創政会・公明代表

松村議員

その他の質問
・自治体の枠を超えた取り組みについて
①産業育成の取り組み
②広域観光の取り組み
③広域福祉の取り組み

奥越地域における普通科のあり方と勝山市の教育について

Q 質問

現在、福井県は職業系高等学校の再編を中心とする県立高等学校再編計画を完了した。現行の勝山高校の入学定員数等を考え、将来的に奥越地域の普通科再編問題が議論にあがる可能性は高い。

そこで、勝山高校と他校との差別化を図る意味で、小中学校から勝山市独自の教育を展開すべきと考える。他市にない独自の取り組みが義務制学校・勝山高校とつながることは、勝山高校の独自性を発揮する大きな要素となるばかりでなく、子供の教育を考えて市内に定住する人々を増やすことにもなる。市の所見を伺う。

A 答弁

今後の県立普通科高校の再編については、現時点では不透明であるが、今の段階から中・長期的な視点で勝山高校のあり方を研究し、具体化していくことは肝要と思う。

勝山の子ども達をこれからの時代を担う有為な人材に育てるといふ観点からも、ご提案の趣旨に沿った取り組みを進めるべきと考える。今後、県教育委員会とも掘り下げた協議を行いたいと思うが、勝山高校は将来的にも絶対に存続すべきとの共通認識を持って臨んでいきたい。

公共工事における歩切りについて

Q 質問

「歩切り」とは、適正な積算に基づく設計書金額の一部を控除する行為と国土交通省は定義している。これは、法律違反となるのが明確になっており、国土交通省は再度にわたり自治体等に「歩切り」廃絶を指導してきた。

さて、勝山市では公共工事を発注する際に、積算金額から数%を控除して予定価格を設定している。国土交通省の指導に基づき、市として改善策を講じるべきと考えるが所見を伺う。

A 答弁

平成26年6月にインフラ等の品質確保と、その担い手確保を実現することを目的に法改正が行われ、同年10月には総務省並びに国土交通省から「公共工事の入札および契約の適正化の推進について」の通知があり、この中で緊急に措置に努める事項として適正な予定価格の設定を行うよう要請があった。勝山市としては現在、勝山市入札制度等改善検討委員会にて検討を重ねており、今後、法改正の主旨や国の通知に基づき、予定価格の設定については福井県や県内市町の動向を踏まえながら適切な運用に努めてまいりたい。